第３次魚津市観光振興計画目次（修正r3案）

資料４－１

はじめに　～この計画が一番伝えたいこと～

「観光」を市の基幹産業の１つとするために将来的に必要となる観光消費額

※今回資料でご説明します。

第１章　計画策定にあたって

1　計画策定の趣旨・目的
2　計画の概要
（1）計画の位置づけ
（2）計画の策定方法
（3）計画期間

第２章　魚津市を取り巻く観光の現状と課題

1　日本の観光の動向
（1）社会情勢の変化
（2）国内旅行の状況
（3）訪日外国人旅行者の状況
（4）国・県の動向

※今回資料提示なし
最終版の全体計画書（案）の際に確認いただきます。

2　魚津市の観光の現状と課題
（1）第２次観光振興計画（平成29年度～33年度）の総括
（2）魚津市の観光の現状
（3）魚津市の観光の課題

※今回、「資料４-3」の体系図（案）の中で、「現状と課題」の概要として箇条書きで提示します。

第３章　新しい観光振興計画に基づく観光戦略

1　基本コンセプト
2　数値目標
3　戦略の内容
（1）第３次観光振興計画の体系図
（2）計画の具体的な取り組み内容
（3）新型コロナを踏まえた新たな時代に対応した観光施策

※今回は「現状と課題」を踏まえた新たな計画の「体系図（骨子案）」として、全体概要と「主要な数値目標」を確認いただきます。

第４章　推進体制と進行管理

1　役割分担と推進体制
2　進行管理

第５章　巻末資料（経過、統計データ、名簿、条例など）

1　第２次振興計画における指標の結果
2　満足度調査の結果
3　観光に関する統計資料
4　第３次観光振興計画の策定計画と体制
5　魚津市観光振興条例

※今回資料提示なし
最終版の全体計画書（案）の際に確認いただきます。

はじめに ～この計画が一番伝えたいこと～（修正r3案）

将来、魚津市の人の暮らしや産業が活力あふれる「輝くまち」として、わたしたちが豊かに暮らし続けていくために…

観光客に使ってもらうお金を

年間128億円にすることが必要です!!

将来、観光客に使ってもらうお金（観光消費額）を令和元年と比較して1.8倍となる年間**約128億円**にすることができれば、人口減少の中においても賑わいの創出、地域の魅力向上、関係人口や移住・定住者増加、所得向上など私たちの生活の中に様々な効果をもたらすものと考えます。

この計画は、魚津市の観光産業の発展により、私たちの生活が豊かになり、まちに幸せと誇りを実感し続けられるように、市民、観光関係事業者、行政など観光に関わる全ての人が、共通の認識を持って観光施策を推進していくための方向性を示しています。

観光都市として将来的に必要となる観光消費額の試算（修正r3案）

★「観光」を市の基幹産業の１つとするために将来的に必要となる観光消費額

128億円※

※具体的な年次目標額ではなく、観光産業で魚津市が豊かになる試算の１つです。

観光都市として将来的に観光産業で稼ぐ観光消費額の考え方

全国的にほとんどの自治体で人口減少が進み、特に生産年齢人口が大きく減少する見通しとなっている中、「地域経済の衰退」をどのように最小限に抑えるかが地域の大きな課題となっています。

そこで、人口減少による市税収入の減少や地域の衰退を解決する手法の一つとして、**地域全体で観光産業を強化**することが挙げられます。そのためには、**来訪者（リピーター）を確保することで外貨を獲得して域内消費額を増大**させ、地域内における経済循環を高めることが必要となります。

以上の点を達成させるため、魚津市と産業構造等が類似した自治体（市）を以下の考え方に基づき全国から６市を抽出し、魚津市民が「観光が市の基幹産業になっている」と体感できる数値の目安として、将来的に「稼ぐ」必要のある観光消費額を試算します。

① 地域経済循環分析より、魚津市の「※産業別修正特化係数」の上位３位は、高い順に「電子部品・デバイス」、「その他製造業」、「水産業」となっています。（図１参照）

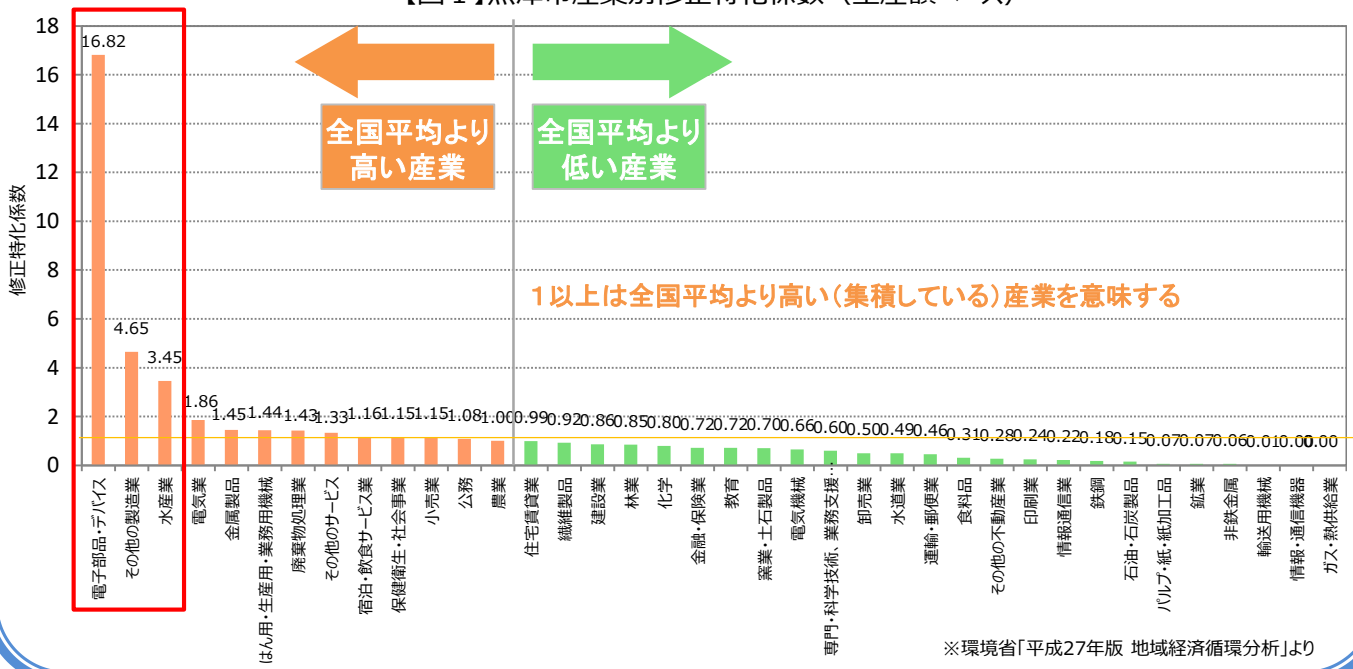
※産業別修正特化係数…**その産業が全国と比較して優位（＝得意）なのかを示す係数**。1より大きければ全国平均より優位。

② 魚津市の産業修正特化係数上位３位のいずれかが最も高い自治体（類似自治体）を抽出します。（次ページ図２参照）

③ 比較対象可能な「域内総生産」と「観光消費額」を公表している自治体を抽出します。

④ 目標となる観光消費額のため、魚津市より観光消費額が少ない自治体を除外します。

【図１】魚津市産業別修正特化係数（生産額ベース）



※環境省「平成27年版 地域経済循環分析」より

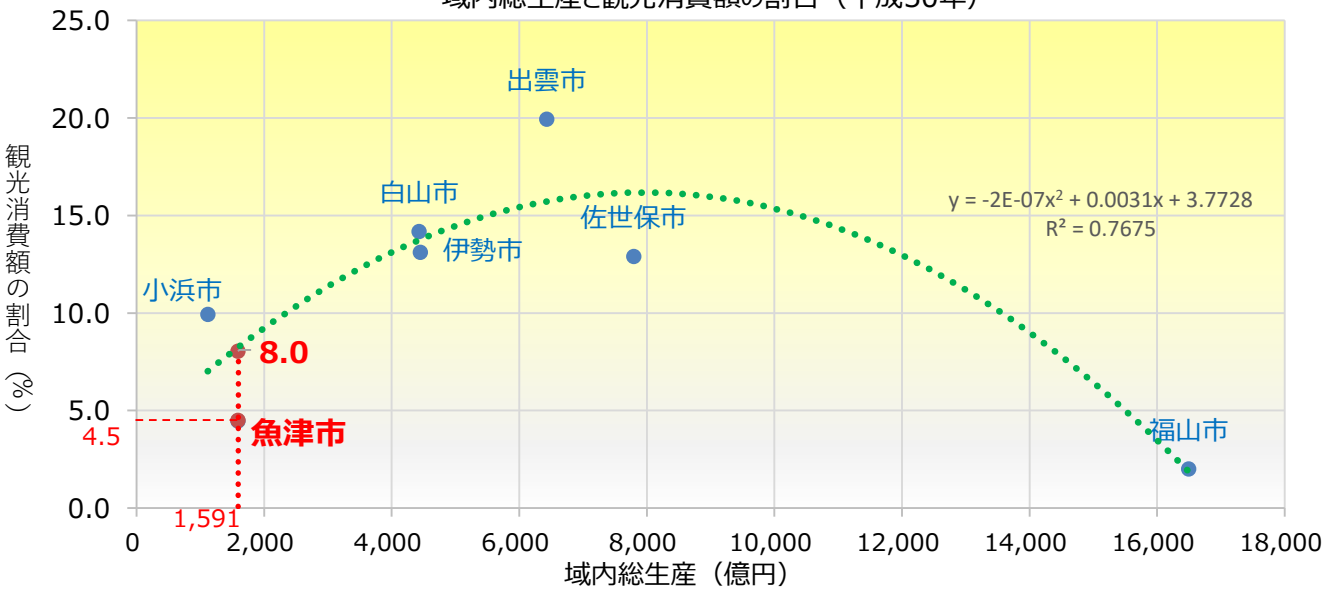
観光都市として将来的に必要となる観光消費額の試算（修正r3案）

魚津市と産業構造等が類似する６市を図２のとおり抽出し、図３のとおり横軸に域内総生産、縦軸に域内総生産に対する観光消費額の割合を配置したプロット図を作成し、平均的な傾向を表す曲線を書き込みました。

【図２】産業構造等が魚津市と類似する自治体

抽出自治体名 ( )内は人口（人）		A 域内総生産（億円）	【参考】人口１人当たり生産額（千円）	B 観光消費額（億円）	観光消費額の占める割合 B/A (%)	産業別修正特化係数 ( )内は順位		
						①電子部品・デバイス	②その他製造業	③水産業
富山県	**魚津市 (40,695)**	**1,591**	**3,910**	**71**	**4.5**	**16.82(1)**	**4.65(2)**	**3.45(3)**
島根県	出雲市 (174,769)	6,431	3,680	1,282	19.9	**13.74(1)**		
石川県	白山市 (113,186)	4,430	3,914	628	14.2	**12.16(1)**		
広島県	福山市 (464,194)	16,495	3,553	323	2.0	**11.30(1)**		
福井県	小浜市 (28,672)	1,118	3,898	111	9.9	**3.72(1)**		3.25(2)
三重県	伊勢市 (123,449)	4,449	3,604	583	13.1		**3.09(1)**	
長崎県	佐世保市 (240,545)	7,795	3,241	1,007	12.9			**6.77(1)**

【図３】電子部品・デバイス、その他製造業、水産業が盛んな観光都市における域内総生産と観光消費額の割合（平成30年）



魚津市における域内総生産（平成30 年度1,591 億円※）に対する観光消費額（平成30年度71億円）の割合は、4.5%です。　※環境省「平成27年版 地域経済循環分析」より推計

この図から平均的な傾向を表す曲線と交わる観光消費額の割合は8.0%となり、域内総生産ベースの金額に換算すると約128億円（≒1,591 億円×8.0%）となります。

このように、魚津市と産業構造等が類似した自治体と比較して、「観光を基幹産業」として地域内で観光産業で稼ぎ、将来的に観光都市として豊かになるためには、観光消費額を**128億円**とすることが必要です。

第３次観光振興計画期間中における観光消費額の数値目標（修正r3案）

計画期間最終年度（令和８年度）の観光消費額の数値目標
（令和元年度（73億円）を基準値として設定）

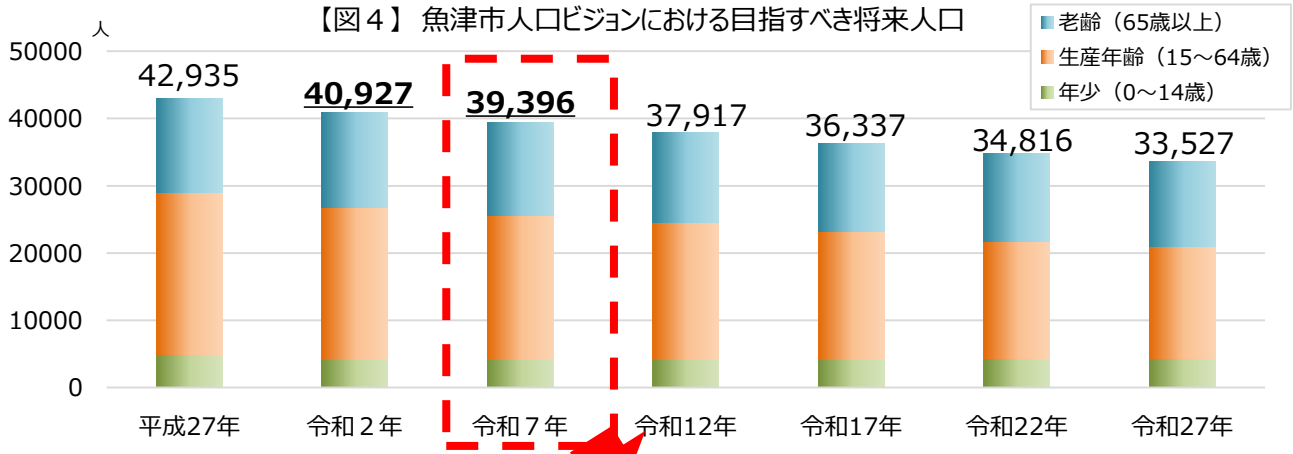
約89億円

将来的な観光都市としての観光消費額は「128億円」必要ですが、第３次観光振興計画の期間（令和４年度～８年度）においては、次のとおり数値目標を設定します。

観光消費額の数値目標の考え方

定住人口１人当たりの年間消費額は130万円と言われています。魚津市人口ビジョンにおける目指すべき将来人口（図４）を基にして、計画期間（令和４年度～令和８年度）の人口減少による域内消費額の減少分を観光消費額で補っていくものとして数値目標を設定しました。

【図４】 魚津市人口ビジョンにおける目指すべき将来人口



出典：第５次魚津市総合計画「魚津市人口ビジョン」より

【図５】計画期間における観光消費額の数値目標

区分	令和元年（基準値）	令和２年	令和３年	令和４年	令和５年	令和６年	令和７年	令和８年	【参考】観光都市として将来的に必要となる観光消費額
人口（人）	41,329	**40,927**	40,621	40,315	40,008	39,702	**39,396**	39,100	
年間人口減少数（人）（魚津市人口ビジョンの５年区分の人口減少数を単年で均等割した数値）					306	306	306	296	
人口減少による域内消費額の減少分（億円）＝①（130万円/人 × 年間人口減少数）					－4.0	－4.0	－4.0	－3.8	
観光消費額の増加で補う額（①と同額）					**＋4.0**	**＋4.0**	**＋4.0**	**＋3.8**	
観光消費額（億円）	**73.0**	41.9	（未定）	**73.0**	77.0	81.0	85.0	**88.8**	**128**

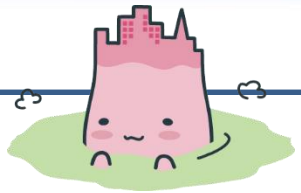
上記図５のとおり、新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和２年の観光消費額が激減したため、本計画においては令和元年の数値を基準値とし、「計画初年度（令和４年）に基準値に回復する」という想定で数値設定しています。

人口減少による域内消費額の減少分を観光消費額を増加させることで補い、域内の消費を維持するものとして目標額を設定すると、**計画最終年度（令和８年度）**で**約89億円**となります。

なお、観光消費額の数値目標については、延べ宿泊者数や１人当たり消費単価の増加等により達成されるべきものと考えられ、構成要素となるそれらの数値目標設定は次ページのとおりです。

第３次観光振興計画の主要な数値目標（追加r3案）

★ 観光消費額89億円の達成のために必要な数値目標



1 延べ宿泊者数	→	年間2.0%増
2 入込数（宿泊客＋日帰り客）	→	年間2.0%増
3 １人当たり消費単価	→	500円増/R4➡R8

※宿泊客、日帰り客それぞれで年間2%増で試算

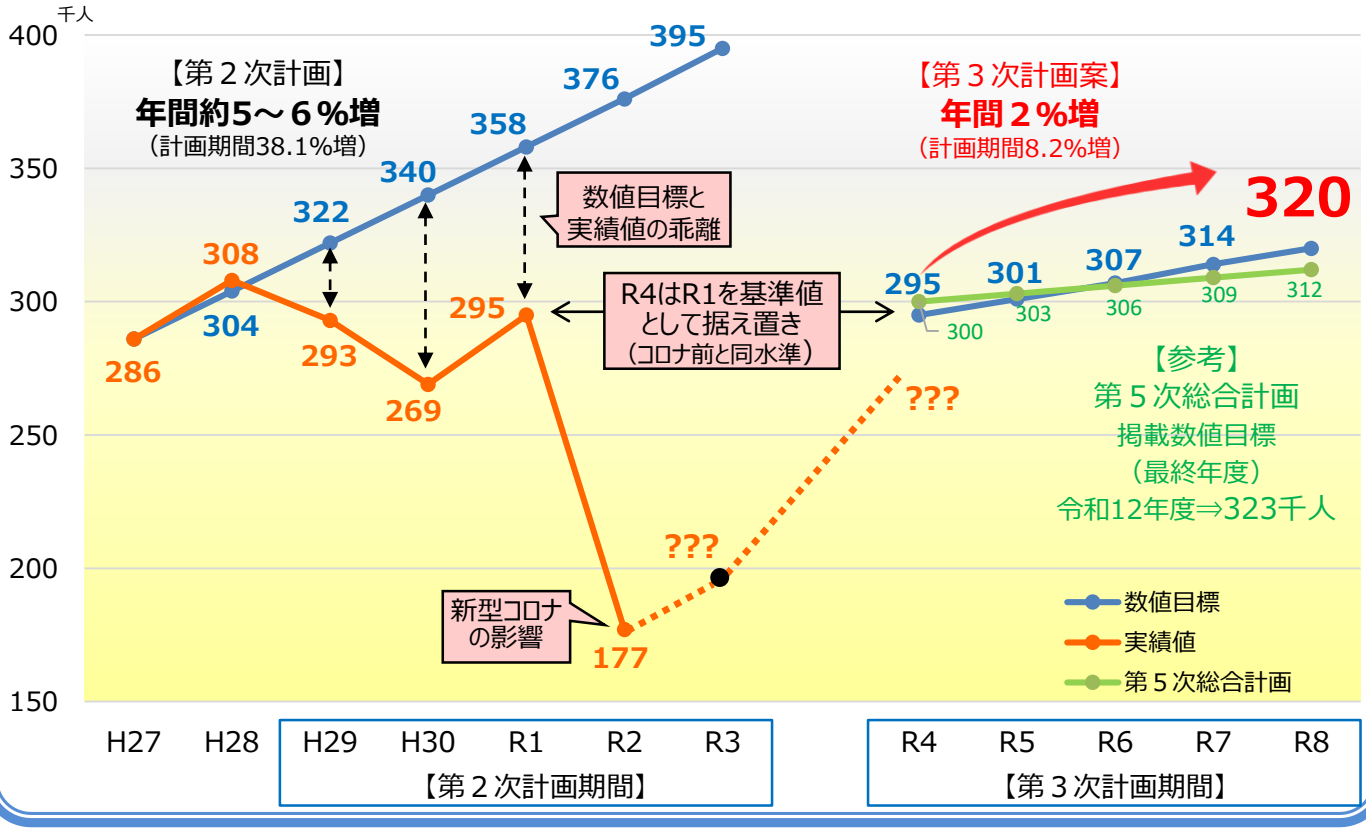
※年間で宿泊観光客500円、宿泊ビジネス300円、日帰り客100円それぞれ増加させた平均消費単価を試算

1 延べ宿泊者数　年間2.0%増

新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和２年の宿泊者数が大きく減少したため、本計画においては図６のとおり、**令和元年の数値を基準値**として「計画初年度（令和４年）には基準値に回復」する想定とします。計画２年目以降は、**「前年比２%増」**として最終年度数値目標は**320千人**（基準値令和元年比**8.2%増**）とします。

第２次観光振興計画における数値目標設定の考え方は、年間18千人増（年間5～6%増、基準値平成27年比38.1%増）と、宿泊施設の収容数や稼働率等を考慮すると現実的に厳しい目標でしたが、新たな計画（第３次観光振興計画）では、観光消費額89億円を達成するために必要な目標として、延べ宿泊者数は年間約６千人増としました。

【図６】延べ宿泊者数の数値目標と実績値



第３次観光振興計画の主要な数値目標（追加r3案）

２ 入込数（宿泊客＋日帰り客）

年間2.0%増

新型コロナウイルス感染症により、令和２年～３年に開催予定の市内イベントや行事が中止となり入込数が大きく減少したため、本計画においては令和元年の数値を基準値として、「計画初年度（令和４年）には基準値に回復」する想定とします。

計画２年目以降は、体験型観光の強化や既存観光施設で行われる企画展の実施や情報発信などにより、宿泊客、日帰り客（イベント参加者含む）ともに**「前年比２%増」**として最終年度数値目標は**1,663千人**（基準値令和元年比**8.2%増**）とします。

観光客入込数(千人)【計画全体：8.2%増】		令和元年（基準値）	令和４年	令和５年	令和６年	令和７年	令和８年
目標値（R1は実績値）		**1,536**	**1,536**	**1,567**	**1,598**	**1,630**	**1,663**
内訳	宿泊客	295	295	301	307	314	320
	日帰り客	1,241	1,241	1,266	1,291	1,317	1,343
対前年増減		－	R1と同値	2.0%増	2.0%増	2.0%増	2.0%増

３ １人当たり消費単価

500円増/R4➡R8

観光消費額の増大のためには、宿泊者数や入込数の増加だけではなく、来訪者１人あたりの消費額（消費単価）も合わせて増加させる必要があります。

今回の第３次計画案では、令和元年の数値を基準値として宿泊客と日帰り客を合わせた来訪者全体の１人当たりの消費単価を、**令和８年度（計画最終年度）までに500円増加**させるものとします。

そのためには、これまで以上に観光関連事業者が連携して観光産業の底上げを図り、来訪者が求める商品を準備して観光消費を喚起する必要があります。その一例として、

- 農山漁村の文化を体験できるメニュー開発・販売
- サイクリングコースを活用したアクティビティ体験商品販売
- 連泊する観光客向けの市内周遊宿泊プランの販売
- 海の幸、山の幸の食の磨き上げによる「食」の消費拡大

などの消費額増加に寄与する観光施策に取り組んでいきます。

１人当たり消費単価【計画全体：１人当たり500円増】		令和元年（基準値）		令和８年（計画最終年度）	備考（R4➡R8）
目標値（観光消費額/入込数）		**4,800円**	➡	**5,300円**	**500円増**
内訳	宿泊客	13,000円		14,400円	1,400円増
	日帰り客	2,800円		3,200円	400円増